

太子高校の挑戦 その5

アクティブ・ラーニング研修会

本年度は、太子高校の「挑戦の年」と位置づけて「学力向上」「授業改善」に取り組んでいます。この通信で本校の取組みについてお話することで、太子高校の挑戦について知っていただければと考えています。

7月6日（月）に、アクティブ・ラーニングの職員研修会を行いました。講師は、産業能率大学の小林昭文教授です。アクティブ・ラーニングの第一人者として、日本全国を飛び回っていらっしゃいます。お忙しいスケジュールを縫って、本校で講義をしていただきました。本校でこの研修会をするということ、あちこちにご紹介したところ、「参加したい」というお声をたくさんいただき、当日は34名の先生方がおいでくださいました。今、アクティブ・ラーニングがいかに注目を浴びているかということ、改めて感じました。

研修会の様子は、ホームページでもご覧いただけますが、2時間の設定時間を少々オーバーするほど、熱のこもった研修会になりました。また、研修会後の懇談会でも質問が途切れることなく続き、先生方の熱心さに圧倒される思いでした。講義の中では、小林先生の「物理」の授業で行われたアクティブ・ラーニングの体験もでき、参加者全員がアクティブ・ラーニングという手法について知ることができました。

この「共通理解」「共通体験」が、学校教育の中ではとても大切になります。言葉（イメージ）が先行すると、知らず知らずのうちに各自がバラバラの方向に向いているのに気づかないまま進み、気づいたときには收拾をつけることができなくなってしまう・・・ということにもなりかねません。今回の研修会は、その意味でも大切な取組みになったと感じています。

小林先生のお話の中で印象的だったのは、模擬授業の中のグループで話し合っている時に、小林先生が各グループに声をかけたことを、ほとんどの人が覚えていなかったことです。「みんなで協力できていますか」「あと〇分ですが、順調ですか」という簡単な言葉かけなのですが、それをきっかけにグループが動き出し、全員で問題を解いていきます。生徒は、自分たちの力で答えにたどり着くので、「協力し合って理解できた」ということしか覚えていませんとのことでした。これが、アクティブ・ラーニングの醍醐味ですね。「教えずぎないこと」を教えていただきました。

ONE SHOT



月曜日の朝のONE SHOTです。生徒昇降口を上がったところの2棟から1棟へ行く渡り廊下には、週末課題を提出するために、こうしてカゴが並びます。写真では分かりにくいのですが、クラス名と課題名が書かれた札が、見やすいように掲げられています。登校してきた生徒は、各自で週末課題をカゴの中に入れていきます。昨年度から、毎週続いているので、生徒にとっては習慣になっているようです。これは2年次のものですが、1年次も3年次もそれぞれに置かれています。

この提出方法のいいところは、①何をどこに提出すれば良いのかが一目でわかる ②毎週決まった時間に設定してあるので習慣化しやすい ③整然と並んでいる ということです。ちょっとした工夫で、提出率がぐんと伸びます。先生方のアイデアのたまものです。